

## PTX+Bmab

対象

手術不能・再発乳癌

投与順	抗癌剤名	投与量	手技	投与時間・速度	投与日 (d1,d8等)
1	パクリタキセル	80mg/m <sup>2</sup>	点滴静注	60分	d 1,8,15
2	ベパシズマブ	10mg/kg	点滴静注	90分→60分→30分	d 1,15

1コース期間	28日間	
総コース数	規定せず	
コース間での休薬の規定	<p>血液毒性:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好中球数&lt;1500-1000/mm<sup>3</sup>(grade2)または血小板数&lt;100000-75000/mm<sup>3</sup>(grade1)の場合;PTX 60mg/m<sup>2</sup>に減量し通常量投与基準に回復後、80mg/m<sup>2</sup>で投与再開。</li> <li>・好中球数&lt;1000-500/mm<sup>3</sup>(grade3)または血小板数&lt;75000-50000/mm<sup>3</sup>(grade2)の場合。好中球数&lt;500/mm<sup>3</sup>(grade4)が<sup>1</sup>10日以内または血小板数&lt;50000-25000/mm<sup>3</sup>(grade3)の場合;PTX 休薬、通常投与基準に回復後、80mg/m<sup>2</sup>で投与再開。</li> <li>・好中球数&lt;1000/mm<sup>3</sup>(grade3以上)で発熱(38.5°C以上)を伴う場合、好中球数&lt;500/mm<sup>3</sup>(grade4以上)が11日以上継続する場合、</li> <li>血小板数&lt;50000-25000/mm<sup>3</sup>(grade3)を伴う出血がある場合、血小板数&lt;25000/mm<sup>3</sup>(grade4)の場合:休薬。通常投与基準に回復後、60mg/m<sup>2</sup>で投与再開。その後の増量は行わない。投与再開後に再発がみられた場合は中止。</li> </ul> <p>非血液毒性:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高血圧grade3の場合、降圧薬内服コントロール可能になるまでベパシズマブを休薬。</li> <li>・蛋白尿 (grade2.3)の場合 :grade1以下に回復するまでベパシズマブを休薬。ただし、grade2であっても24時間蓄尿による定量検査を実施し、タンパク量が2g/24時間以下であれば投与可能とする。</li> <li>・肝毒性(AST,ALT,T-Bil)grade3以上;ベパシズマブはgrade2以下に回復するまで休薬。PTXはgrade2以下に回復するまで休薬し、回復後、80mg/m<sup>2</sup>で投与再開。</li> <li>・神経毒性grade3以上の場合:ベパシズマブはgrade2以下に回復するまで休薬。PTXはgrade2以下に回復するまで休薬し、回復後、60mg/m<sup>2</sup>で投与再開し、その後は増量しない。再開後に症状が再発した場合は中止。</li> <li>・その他の非血液毒性grade3以上の場合</li> </ul> <p>ベパシズマブ:投与開始前のレベルまたはgrade1以下(体重減少、電解質異常の場合はgrade2以下)に回復するまで休薬。再開後に再発がみられた場合は中止。</p> <p>PTX:投与開始前のレベルまたはgrade1以下(体重減少、電解質異常の場合はgrade2以下)に回復するまで休薬。回復後は60mg/m<sup>2</sup>で投与再開し、その後は増量しない。</p> <p>再開後に再発がみられた場合は中止。</p>	
投与量の増量規定	規定せず	
減量規定・中止基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液毒性が出現した場合は上記記載の通り。</li> <li>・非血液毒性:投与中止事項 grade3以上の静脈血栓症 全gradeの動脈血栓症、grade3以上の出血、grade4以上の高血圧、消化管穿孔、瘻孔、可逆性後白質脳症候群、grade4の蛋白尿、ベパシズマブ投与時のinfusion reaction grade3以上、PTX投与時のgrade3以上のアレルギー反応が出現した場合</li> </ul>	
コースによる変化	規定せず	
投与間隔の短縮規定	規定せず	
2コース目以降の投与開始基準	非血液毒性(悪心・嘔吐、脱毛、倦怠感以外) 好中球数 血小板 ヘモグロビン 肝機能 T-Bil 血清クレアチニン PT-INR 尿蛋白 心電図	Grade 0-2 1500/mm <sup>3</sup> 以上 100000/mm <sup>3</sup> 以上 8.0g/dL以上 AST, ALTいずれも施設基準値の2倍未満 1.5mg/dL以下 1.5mg/dL未満 1.5ULN以下 1+以下 正常(心疾患、重篤な不整脈のない症例)
注意すべき副作用	インフュージョンリアクション、心毒性、アレルギー反応など	

## PTX+Bmab

1コース期間 28日

投与所要時間 初回 D1:3時間30分、D8:2時間、D15:3時間  
2コース目以降 D1、15:2時間30分 D8:2時間

ルート	Rp	薬剤名	標準投与量	投与方法	投与速度	day1	day8	day15	day22
主管	1	カイトリルバッグ100mL デカドロン 6.6mg ファモチジン 1A ★レスタミン錠 50mg 内服		div	400mL/hr (15min)	○	○	○	
	2	生食100mL		div	200mL/hr (30min)	○	○	○	
	3	生食 250mL パクリタキセル【 】mg/body	80 mg/m <sup>2</sup>	div	250mL/hr (60min)	○	○	○	
	4	生食 50mL		div	全開	○		○	
	5	生食 250mL(初回のみ) 生食 100mL(2回目以降) アバスチン【 】mg/body	10 mg/kg	div	初回167mL/hr(90min) 2回目100mL/hr(60min) 3回目以降200mL/hr(30min)	○		○	
	6	生食 50mL		div	200mL/hr (15min)	○	○	○	

### コメント

・PTX投与30分前、レスタミン錠50mg内服  
 ・DEX:アレルギー症状の発現がない場合は、2コース目より3.3mgまで減量可  
 ・アバスチン投与初回にてinfusion reactionなど、投与中の問題所見がない場合は、2回目は投与時間を60分に短縮できる。さらに、infusion reactionに十分な注意を払い、問題ない場合は3回目以降は投与時間を30分に短縮できる。投与時間が30分でgrade2以上のinfusion reactionを発現した場合は、投与時間を60分に延長することができ、投与時間を60分にしてgrade2以上のinfusion reactionを発現した場合には、次回投与から投与時間を90分に延長できることとする。なお、投与時間の延長が必要となった場合は、以降の投与時間の短縮は行わない。

### Reference:

JO19901 Breast Cancer Res Treat 2011 E 2100 N engl j med 357:26 www.nejm.org december 27, 2007  
 AVADO JCO 2010 ribbon-1 J Clin Oncol 29:1252-1260. 2011